

米の先物取引に関する生産調整研究会での議論

生産調整研究会では、平成14年3月から11月にかけて、研究会、企画部会、流通部会で米の先物取引について議論された。主な議論は以下のとおり。

第5回企画部会（14.3.22）

- ・流通形態の多様化とは先物取引を含めたものか。
- ・先物は直ちには無理だと思う。
- ・流通部会での検討が適切。

第6回企画部会（14.4.3）

- ・生産者・実需者にリスクヘッジする手段をもたせる観点から、先物は必要かもしれない。
- ・今の日本の稲作構造とか、市場の成熟度を考えると非常に問題が多い。
成立条件がどうなのか議論をきちんとしていただきたい。

第1回流通部会（14.4.16）

- ・先物取引を行う環境にあるのかどうか検討いただきたい

第5回生産調整研究会（14.4.26）

- ・先物取引の議論をする場合、生産調整の研究とは別の議論形成になってしまうのではないか

第2回流通部会（14.5.8）

- ・先物市場が成立する前提条件の整理が先決。国境措置、生産調整等を前提とした先物市場は成立困難。議論先延ばすべき。
- ・将来を見据えた考え方であり、全く議論を先送りするのはいかがか。

第3回生産調整部会（14.5.14）

- ・リスク回避の手法が未整備という指摘がある一方、市場が未成熟の中では、先物取引は無用の混乱を招くだけとの指摘もある。

第3回流通部会 (14.5.22)

- ・資本主義・自由主義経済の中では、先物市場があって、安心して米が生産できる場があってほしい。

第6回生産調整研究会 (14.5.30)

- ・これまで先物について、若干の議論があった。消極論と、消極的に考えるべきではないという意見が双方表明されている。

第7回生産調整研究会 (14.6.28)

- ・新しい生産調整を議論している中で、全く相矛盾している先物取引についてどうするかというような話はないのではないか。
- ・両論併記で書かざるを得ないと思う。先物の必要性を流通の問題として、将来議論していく必要があるのではないか。
- ・先物取引は流通が自由化されれば必要になると思う。
- ・需給ギャップに対し、手立てを講じようとしているのに、流通の段階だけものを考えて、自由でよい、先物はよい、というのは、こうした議論を無効にしかねない。
- ・両論併記というよりも、現在の問題と将来の問題と分けて考えるということではないか

以上の議論を踏まえ、生産調整研究会中間とりまとめ (H14.6.28) では、以下のとおり整理された。

『先物取引については、生産調整や国境措置を行っている現状では導入すべきではないが、将来において、関係業者の価格変動リスクを軽減させる手段として、その導入の可能性を排除すべきではない。』